

## 八ヶ岳横岳石尊稜

2009年2月21, 22日

メンバー：山本(L, 記)、釣

2/21(土) 晴

前日の低気圧通過で気をもませたが、強い西高東低にはならず穏やかに晴れる。昼過ぎに美濃戸口に着。白土君からの情報に意を強くしてチーンなしで美濃戸まで車で上がることにする。林道状態が良く 10 分ほどで赤岳山荘Pまで着いてしまった。一旦樂をすると後がこわい。

気温は-2~-3 度だがうららかな陽光に温もりを感じながら赤岳鉱泉まで歩く。久しぶりの重荷が肩にこたえる。3 時過ぎには鉱泉に着き、設営後私は偵察がてら散歩、釣さんは読書(or 昼寝?)。積雪自体は少ないが、昨日の降雪で横岳西壁は真白、いつもは黒い大同心まで白く薄化粧している。この時点で、冬の岩稜は久し振りだからなどと言い訳を考えながら、当初計画の中山尾根から石尊稜へと変更を決める。

夕方、アイスで来ていた河崎パーティと談笑しながら酌み交わす。こういう一時が楽しい。

2/22(日) 晴のち曇

中山乗越への道が急になる手前、左の沢筋に入る。トレースがあるので歩きやすい。三叉峰ルンゼと日の岳ルンゼの出合を右に入り石尊稜取付きを目指す。取付き前の雪壁をトレース通りに上がってしまったが、ここは雪崩れるリスクもあるので手前から左の小尾根に取りつくべきだった。

取付 8 時 20 分。下部岩壁をパーティが先行していた。岳樺でビレイして取付くが、最初からホールドが細かく結構きつい。傾斜がそれほど立っていないので何とかこなし、左上するバンドから 20mほどでボルトが打ってあるビレイ点へ着く。釣さんを迎えツルベで 2P 目小さな凹角を直上し左に回り込みながら上に見える岳樺を掴んで越えてゆくのがダイナミックだ。下からは6人ほどのパーティが上がって来るがガイドパーティらしい。追いつかれると厄介だなと思いながら急ぎフォローして下部岩壁の上に出る。そこからは急なリッジが続きコンテで行くが、所々岩や凍った草付がいやらしい。時折灌木でプロテクションを取りながら、小ピークまで 150mほど登る。こういう時の行動を機敏に判断して要領よく登らないと、マルチピッチの場合結構時間を食ってしまう。この

頃から予報通り天候悪化の兆しで西風が強くなり、コールは殆ど聞こえなくなってきた。小ピークからナイフエッジを100mほど上がり上部岩壁へ。ここで下のガイドが追いついて割り込んでくる。先行打診の挨拶もしてきていたので先に行ってもらうが、あとに続く客のことを考えると憂鬱になる。結局1P行ったところで長い間待たされてしまうこととなった。強い風にさらされて待つのは体が冷えてつらい。2P目はリッジ通しでホールドも大きくなぜ待たされたのか不思議だった。3P目は易しいガリー状から草付斜面を登り、あとはわずかなコンテで石尊峰へと出た。強風をよけて東側の斜面で一本とる。考えれば朝出てから何も口にしていなかった。

休憩もそこそこに吹き荒れる風と地吹雪のツブテにあおられながら地蔵尾根の分岐まで主稜線を行く。分岐から20分も下ると風も弱くなり、あとはノンビリと行者から鉱泉へと辿る。

2/21(土) 美濃戸 12:50～赤岳鉱泉

15:10

2/22(日) 鉱泉 6:50～石尊稜取付

8:20～8:40～石尊峰 12:

50～13:00～地蔵尾根分岐

13:30～行者小屋 14:  
30～14:40～鉱泉 15:20～15:  
50～美濃戸 17:00



【石尊稜(中央)】